

## 80 歳以上の部 医師部門

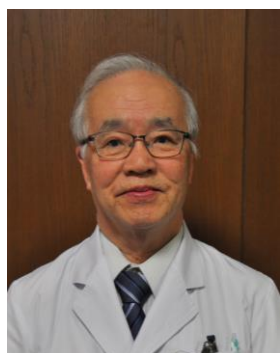
受賞者： うかい たかし 鵜飼 卓 (84 歳)

医療法人喜望会谷向病院 健診センター長

兵庫県災害医療センター 顧問

NPO 災害人道医療支援会 (HuMA) 顧問

### 被災地の命を救う。緊急医療、災害医療のパイオニア



鵜飼氏は、外科医として国内外の災害医療、救命救急、公衆衛生の進展に長年尽力してきた。1980 年、カンボジア難民救援医療班の一員として 6 ヶ月間タイ・カンボジア国境で難民救援医療に従事したのを契機に、日本国際緊急援助隊医療チーム (JMTDR) の設立に尽力し、その第 1 回の海外派遣となったエチオピアの干ばつ被災民救援医療チーム(1984 年)の団長を務めた。1985 年、国際救援に入ったメキシコ大地震で初めて病院倒壊を経験し、「患者を救うべき病院で、人が亡くなる」事実衝撃を受ける。1995

年の阪神・淡路大震災では、当時の勤務先であった大阪に行くことができず、多くの被災者が殺到する地元の兵庫県立西宮病院で応援の診療にあたった。道路やライフラインの断絶により、救えたはずの命が救えないという痛恨の念から、瓦礫の下での治療や被災地の外へ重傷者を搬送し、必要な治療を提供するシステム構築の重要性を強く感じた。それらの経験が、2003 年の兵庫県災害医療センターの設立につながり、顧問に就任するとともに、緊急医療対応の指揮、そして日本 DMAT 研修の西日本拠点として全国の災害拠点病院と連携を図りながら災害医療活動に尽力してきた。鵜飼氏の活動は国内にとどまらず、日本政府が派遣する国際緊急援助隊医療チームや NPO 災害人道医療支援会に医療従事者を派遣して国際貢献の一翼を担っている。中東南アジアでの地震、津波災害、洪水やサイクロン被害などの際には、自ら被災地に入り、緊急医療活動および急性期後の感染予防対策や公衆衛生活動の指揮をとった。

鵜飼氏は豊富な経験をもとに、後進の育成にも力を注いでおり、日頃から医療技術の向上と訓練で災害時に備え、職員一人ひとりの災害に対する意識を高めるための心構えを説く責任感あふれる姿は、多くの医療従事者、職員からの信頼を厚く寄せられるものである。

推薦者： 伊賀 俊行 一般社団法人西宮市医師会 会長